

全木連時報

6月25日(水曜日)
(第543号) (毎月25日発行)
平成15年(2003年)

発行所
社団法人 **全国木材組合連合会**
編集長 後藤隆一
東京都千代田区永田町2-4-3 ☎(3580)3215
URL <http://www.zenmoku.jp>

昭和33年12月15日第三種郵便物認可

定価 年500円

『全木連時報』の購読料は年会費に含まれています。



2日間で31,000人の来場者が訪れて賑わう会場

明日のくらしと環境木材フェア

大阪ドームで開催

木材の良さを積極PR

目次
一面 今年一回目の木材フェアを大阪ドームで開き、多数の来場者を迎える
二面 新JAS制度がスタート 認定書交付式を行い質の高いJASを誓う
三面 カナダ向け梱包材の検疫措置延期 ほか
四面 景況調査 おしらせ

全国木材協同組合連合会(庄司橙太郎会長)は「明日のくらしと環境・木材フェア」を六月十四、十五の両日に大阪ドームで開催した。広く木材をPRし、新技術や新製品を紹介するためのイベントで、今年で三年目。全木連の主催は初めて。大阪での開催は、全森連との共催である。初日はあいにく雨天であったが、まずまずの入場者で両日を通じ、三万一千名の来場があった。

開会セレモニーでは、まず、庄司会長が主催者挨拶し、木材フェアを成功させるとの決意を述べた。続いて、飯塚全森連会長が挨拶し、来賓として、林野庁の松本次長、大阪府知事(代理)、大阪市長(代理)の祝辞が続いた。その後、主催者、来賓によるテープカットが行われ開場した。

開場後は、待ちわびた来場者が入場し、またたく間に会場が埋まる盛況であった。

出展参加は、全木協連主催の「木材フェア」関係だけで五十九ブース。このほか、テーマ別に「ウッドイカレッジ」「ウッドライフ」「木工教室」「ウッドパーク」などのコーナーが設けられ、来場者の関心を集めた。

会場は木の香に包まれ、巨大な大阪ドーム全体が森林浴状態であった。大阪会場に引き続き、六月二十一、二十二日には、さいたま市でイベントを開催した(次号に詳報)。

テープカットで開幕



各ブースとも熱気にあふれる

新JAS制度いよいよ実施 認定証書交付式を開催 まずは457工場でスタート

製材等JASの登録認定機関である全木連は、六月六日に東京で、新JAS制度で認定された工場に対する認定証書交付式を開催し、新制度の確実な定着と発展をアピールした。式典には、認定四十四工場三十三社が出席。品質管理の徹底によるJAS製品の価値の向上を通じ、木材需要の拡大に取り組もうとの意気込みを示した。JAS制度は旧制度からの三年間の経過措置期間を終え、六月十日からは、新制度に基づく表示しか認められなくなる。全木連は、この日までに、Aタイプ四十工場、Bタイプ四百十七工場の計四百五十七工場を認定している。これらの認定工場をもって、新JAS制度がスタートした。

積極的なPR・展示が定着 回を重ねた木材フェアの効果出る

木材フェアの会場は、都道府県木連毎の出展に加え、テーマコーナーにも協力企業や団体が参加し、出展総数は百六十八にのぼった。それぞれに趣向をこらして、展示や実演を行った。さすがに、三回目の開催となると、出展者側もなれてきて、ツボを心得た演出が出来るようになり、一昨年の第一回目の開催に比べると進歩が見られた。

出展者自らが舞台上上がり、自己PRをして、集客につとめたこと

来場者の本気度が目立つ

来場者の反応も、かなり高度であったと出展者が口をそろえるように、具体的な目的をもった来場者が多かったようだ。

また、毎回のことだが、端材やツキ板などが喜ばれて持ち帰られた。

た。ちよつとした日曜大工などの材料を気軽に入手できるところが少ないということかもしれない。関西の大学の協力を得て開いた木材のセミナーも人気。大変まじめな内容にもかかわらず、真剣にかつ楽しく聴講したり、デモ実験に参加する姿が目立った。

今後は、このような消費者の姿が示す木材へのニーズに対応していくことが求められている。

フェアの最後のイベントは、チャリティーオークション。木製品のセリ売りで、ほぼ定価近くまで競り上がるものもあった。圧巻は木造住宅躯体。百十萬円で落札された。

式典は、まず、久我全木連会長が主催者挨拶を行い、次いで、農林水産省の柄澤品質課長の来賓挨拶、久田認定審査委員長による審査報告と続いた。

この後、久我会長から出席した工場に認定証が交付された。

最後に、認定工場を代表して、Aタイプ認定第一号の中国木材の堀川社長が挨拶して、式を終了した。

この後、懇親会に移り、盛会のうちに閉会した。

なお、各挨拶、報告要旨は別項のとおりであるが、いずれも新制度への強い期待が感じられる。

特に新制度は工場の自己責任によるものであり、品質管理能力の高い工場からの安定供給体制が整えば、木材の新局面が期待される。



全木連会長から新JASの認定証書を交付

木材利用の新方向を検討

新JASの動向に注目

久我全木連会長が強調



挨拶する久我全木連会長

式典を主催した久我一郎全木連会長は、挨拶として概要次の点を強調し、新制度の開始を宣した。旧JASは失効し、六月十日からは新JASによらなければならぬ。これによる認定にあたっては、審査委員の努力に感謝する。

長びく木材不況だが、新JASにより木材利用の新たな方向づけを検討できる段階にきた。今後はJAS製品の安定的供給が求められている。四百五十七工場の新JASの動向は注目されている。

以上のように述べ、JAS製品が、今後、木材供給の新たな活力となることに期待をにじませた。

JASの重要性は増す 農林水産省品質課長が強調

来賓として出席したJAS所管の農林水産省の柄澤品質課長は、挨拶として概要次の点を強調した。昨年からの一連のJAS違法表示問題にみられるように認定工場への責任は重い。また、建築基準法

品質管理が重要

久田認定審査委員長の審査報告

認定審査委員長の久田森林総合研究所研究管理官は、審査の経過

報告として、次のような問題点を指摘したうえで、品質管理によって

それを克服することが製材業の発展につながることを述べた。

製材は、品質表示があいまい。特に乾燥がそうだ。水分計の精度に誤差があるのは当然で、そのために全乾法がある。各工場はデーター集めが大変だったろうが、それだけに今回認定された工場は、相対の品質管理が出来ており、製材業の発展につながるだろう。

JASの名に 恥じない製品を 作る

堀川中国木材 社長が挨拶

認定工場を代表して挨拶した堀川中国木材社長は、概要次のように抱負を述べた。

木材はバラツキがあるので、乾燥については、二〇%の表示であれば一四%位にしないと安定しない。当社では一本ごとに含水率を調べている。ヤング率についても一本ずつ管理している。

良いものを作れば買ってもらえらる。住宅は工法の大競争時代。JASの名に恥じない製品を作るのが木材の評価をあげる。

ヤング率の表示の改正も求めたい。木材はバラツキがあるから二十とびでは困る。

カナダ向け輸出梱包材 検疫措置は半年延期

カナダ政府からの通知によると

カナダ向け輸出梱包材の検疫措置としての熱処理については、当初、今年六月からとされていたが、来月一月二日から実施と決定した。

カナダ側の要求条件は、現在のEU向け処理と同様と見られているが、正式な回答はまだないため不明。仮りに、EU向け針葉樹梱包材と同様のシステムであれば、その認証業務を行う全木連として

対応する。

いずれにしても、証明方式(認証マーク表示など)、実施日の時点(日本からの出港日かカナダ着港日か)など詳細が不明のため、農林水産省の指示を待つ必要措置をとる。

農林水産省では、従来から取扱っているEU向け針葉樹熱処理認証システムを承認するようカナダ政府に要請しているという。

我が国にふさわしい森林認証制度を 緑の循環認証会議が発足

我が国にふさわしく国際的にも通用する森林認証制度の創設をめざして緑の循環認証会議(SGEC)が設立された。全木連会長は、理事として参加している。

持続可能な森林経営から生産された木材であることを認証する森林認証制度は既に存在し、我が国でも認証を取得している森林もある。しかし、我が国は広大な人工

林を有し、長い森林施業の歴史を有するという特徴がある。このため、我が国にふさわしい森林認証制度について日本林業協会を中心に検討した結果、今回の設立となった。

今後、審査機関の認定、コンサルタント機関の登録を経て、実際に森林の認証を行うこととなる。

国有林部会を開き意見交換

全木連は、六月十日に永田町ビルで国有林部会を開催し、林野庁の前田国有林野部長ほかの幹部を

まねき、国有林材の販売方針などについて意見交換を行うとともに、

業界としての要望を伝えた。

当日は、各ブロックごとに選出されている部会員が出席。事前に聴取した意見などをともに会議を進行し、終了した。

景況調査 = 全木協

5月分集計表 ()内は実数

【流通部門】

モニター数131 回答数82 回収率63%

当月の状況

販売量	増加26% (21)	変わらず46% (38)	減少28% (23)
仕入量	増加19% (16)	変わらず49% (40)	減少32% (26)
販売価格	上昇4% (3)	変わらず84% (69)	下降12% (10)
仕入価格	上昇4% (3)	変わらず88% (72)	下降8% (7)

来月の見通し

販売量	増加20% (16)	変わらず67% (55)	減少13% (11)
仕入量	増加12% (10)	変わらず70% (57)	減少18% (15)
販売価格	上昇1% (1)	変わらず92% (75)	下降7% (6)
仕入価格	上昇4% (3)	変わらず85% (70)	下降11% (9)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	4% (3)	76% (52)	20% (14)
南洋材	5% (3)	81% (52)	14% (9)
北洋材	5% (3)	73% (47)	22% (14)
国産材	3% (2)	66% (45)	31% (21)
建材	14% (9)	68% (43)	18% (11)

乾燥材取引への関心度	高い	ほどほど	低い
	46% (35)	54% (41)	0% (0)

【製造部門】

モニター数114 回答数60 回収率53%

当月の状況

販売量	増加32% (19)	変わらず48% (29)	減少20% (12)
仕入量	増加21% (13)	変わらず52% (31)	減少27% (16)
販売価格	上昇5% (3)	変わらず83% (50)	下降12% (7)
仕入価格	上昇1% (1)	変わらず92% (55)	下降7% (4)

来月の見通し

販売量	増加25% (15)	変わらず60% (36)	減少15% (9)
仕入量	増加18% (11)	変わらず62% (37)	減少20% (12)
販売価格	上昇0% (0)	変わらず87% (52)	下降13% (8)
仕入価格	上昇3% (2)	変わらず89% (53)	下降8% (5)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	3% (1)	76% (22)	21% (6)
南洋材	5% (1)	90% (19)	5% (1)
北洋材	12% (4)	72% (23)	16% (5)
国産材	5% (2)	77% (34)	18% (8)

プレカットの動向

受注後、加工までの待ち時間	1ヵ月以内	1ヵ月	1ヵ月以上
	55% (11)	40% (8)	5% (1)

退職給与引当金制度(損金算入)は平成十四年度から廃止されました。既に積み立てた引当金も中小企業の場合、十年間で取り崩さなければなりません。十四年度の決算であわてることのないように十分な理解が必要です。今後、退職金の準備に、任意で社内内部に積立金を作ることとは

きませんが、損金算入はできません。つまり税金が掛ります。引き続き、損金算入措置を受けながら退職金を準備するには、企業年金制度を利用する必要があります。企業年金には、いくつか種類がありますが、この場合「木退共」(木材産業退職金共済制度)が最適です。

ご存知ですか

退職給与引当金廃止
退職金の準備は十分ですか
「木退共」利用を勧めます

木退共は、木材産業のために作られた制度ですから、掛金、給付水準とも木材産業の企業実態に合ったものとなっています。急な退職金の支払いは、企業の財政に、大きな圧迫となります。日頃から退職金の必要額を把握しておくことが重要です。退職金の準備は企業の債務と考えなければなりません。木退共の場合、掛金は、月額二千円から三万円まで千円単位で選択できます。給付は、加入年数二年以上で退職した場合に退職金が支払われます。詳しくは、当会、各都道府県木連にお問い合わせ下さい。

お役に立ちます

林業・木材産業信用保証

平成14年4月から推進資金の貸付利率が下がりました。

(例 旧2.1% 新1.5%)

詳しくは、当基金、都道府県林務担当課、関係団体の当基金相談員、もよりの金融機関へお問い合わせ下さい。

林材業専門の保証機関

農林漁業信用基金

後楽事務所(林業部門)

副理事長 高橋 勲

〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-12(林友ビル5階)

TEL 03(3813)5371 FAX 03(3812)8842

ホームページアドレス <http://www.mmjp.or.jp/kikin>

メールアドレス kanrisitu@tokyo.email.ne.jp